



# インド (India)



- 2005年以降、首脳の日次相互訪問を実施。2015年12月、安倍総理訪印時の首脳会談で「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」を拡大・深化させるとともに、「日印新時代」の道しるべとなる共同声明「日印ビジョン2025」を発売。2016年11月、モディ首相訪日時に、「日印新時代」を大きく飛躍させる首脳会談を開催。
- インドへの援助総額は2014年までに累計4兆7,207.60億円。日本はインドにとって最大の二国間ドナー。インドは日本にとって初の円借款供与国。近年は円借款の最大規模の受取国。

## 国概要

### (基礎データ)

- 面積: 3,287,469平方キロメートル(インド政府資料: 中国、パキスタンとの係争地を含む。)
- 人口: 12億1,057万人(2011年, インド国勢調査)
- 首都: ニューデリー
- 民族: インド・アーリヤ族, ドラビダ族, モンゴロイド族等
- 言語: 連邦公用語はヒンディー語。他に憲法で公認されている州の言語が21
- 宗教: ヒンドゥー教徒79.8%, イスラム教徒14.2%, キリスト教徒2.3%, シク教徒1.7%, 仏教徒0.7%, ジャйна教徒0.4%(2011年, インド政府資料)
- 政体: 共和制
- 議会: 二院制(上院250議席, 下院545議席)
- 一人あたりGDP: 1,581ドル(2015年, 世銀資料)
- 経済成長率: 7.6%(2015年度, インド政府資料)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

### (略史)

紀元前3世紀	インダス文明により歴史が始まる 紀元前3世紀にアショカ王が統一王国(マウリヤ朝)を樹立
16世紀中頃-19世紀中頃	その後、分裂を繰り返し、イスラム教徒が統治、ムガル帝国がインドをほぼ統一
17世紀以降	欧州諸国が交易を目的としてインドに入植、19世紀中頃から英国によるインドの植民地支配が確立
1947年	英国から独立、現在の独立国としての道を歩み始める

## 援助実績(E/Nベース)

スキーム	額(累計) / 人数(延べ)
円借款	45,750.62億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	920.80億円 (2014年度末時点)
技術協力	536.18億円 (2014年度末時点)
青年海外協力隊	延べ199人 (2016年6月時点で17人)

出典: ODA国別データブック2015  
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)  
(注)青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

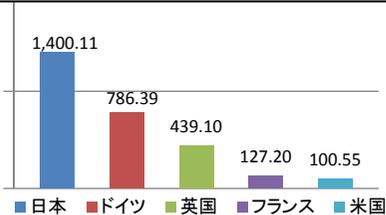
## 経済関係

スキーム	金額 / 人数(直近年)
日本からインドへの輸出	9,692億円 (2015年度, 財務省)
インドから日本への輸出	5,591億円 (2015年度, 財務省)
日本からインドの直接投資	3,545億円 (2015年度, 財務省)
在インド日系企業数	1,229社 (2015年10月, 外務省)
日本企業現地法人の拠点数	441拠点 (2015年10月, 在印大)

## 人的つながり

項目	人数(直近年)
インドにおける在留邦人数	8,655人 (2015年10月, 外務省)
在日インド人数	31,771人 (2016年6月, 法務省在留外国人統計)
インドから日本への留学生数	1,112名 (2016年, 法務省)
インドから日本への観光客数	103,084人 (2015年, 観光庁)

## 主要ドナーの対インド経済協力実績 (2013年, 出典: ODA国別データブック2015) (単位: 百万ドル, 支出総額ベース)



## 日本とインドとの協力年表

年代	案件
1947年	インド独立
1952年	日印国交樹立
1957年	「日印文化協定」締結
1958年	円借款「第1次円借款(電力設備, 船舶, プラント設備)」(180.00億円)」
1966年	JICA(当時は海外技術協力事業団)インド事務所設立
1990年代	経済自由化
1997年	円借款「デリー高速輸送システム建設計画(1)」(147.60億円)
2000年8月	森総理訪印の際に「日印グローバル・パートナーシップ」構築に合意
2005年4月	小泉総理訪印
2006年	「日印戦略的グローバル・パートナーシップ」に向けた共同声明
2006年	デリーメトロ(フェーズ1)区間の全面開通
2007年	日印文化協定締結50周年を記念し、日印交流年事業を実施
2011年8月	「包括的経済連携協定(OEPA)」発効
2014年	インド人民党(BJP)単独政権樹立、モディ首相就任
2014年9月	モディ首相の訪日、日印首脳会談実施「日印投資促進パートナーシップ」の打ち出し
2014年	円借款「デリー高速輸送システム建設計画(フェーズ3)(第二期)」(1,400.00億円)
2015年12月	安倍総理のインド訪問「日印ビジョン2025 特別戦略的グローバル・パートナーシップ インド太平洋地域と世界の平和と繁栄のための協働」
2016年3月	「防衛装備品及び技術移転協定」発効
2016年11月	モディ首相の訪日、日印首脳会談実施

全世界で最初の円借款案件。

交通混雑の緩和と公害の減少を目的として、デリーの地下鉄を整備。



小泉総理訪印以降、ほぼ毎年交互に首脳が相手国を訪問し、年次首脳会談を実施



デリーメトロ(地下鉄)は、現在では1日当たり平均250万人が利用しており、デリー市内の車両が12万台削減され、渋滞が緩和された。工事現場の安全意識や、乗客の整列、女性専用席の整備など、インドの文化面にも寄与。



「日印新時代」の開始。ムンバイ-アーメダバード間高速鉄道への新幹線システムの導入の確認。



具体的成果

- ✓ 「自由で開かれたインド太平洋戦略」と「アクト・イースト」政策の融合
- ✓ 日印原子力協定の署名
- ✓ ムンバイ-アーメダバード高速鉄道計画(進捗報告の提出)